

龍光院〔大猷院内〕

この垣根の向こうに龍光院があります。ここでは、家光の忠臣・梶定良がかつて暮らしていました。家光が死去した際には、当時の習慣としては、主君の後を追いつ腹をすること＝殉死が普通でした。しかしながら梶定良は切腹をすることを許されなかったで、その代わりに、墓所の守護人として任命されたのです。その後梶定良はこの堂に居住して、まるで家光がまだ生きているかのように来る日も家光の食事を準備し続けました。この慣行は彼自身の死まで止むことがなく続けられたといひます。今日では龍光院には釈迦牟尼仏の像が安置されて、祈りの空間として使われています。また龍光院は、参拝客が容易に近づくことが許されず、寺院に縁のある方々が守っています。